T2R2 東京科学大学 リサーチリポジトリ
Science Tokyo Research Repository

論文 / 著書情報
Article / Book Information

題目(和文)	ロンドンの「地域とのつながり」に基づく再接続政策－グローバル都市におけるラフスリーピング問題－
Title(English)	
著者(和文)	河西奈緒
Author(English)	Nao Kasai
出典(和文)	学位:博士(学術), 学位授与機関:東京工業大学, 報告番号:乙第4145号, 授与年月日:2017年9月30日, 学位の種別:論文博士, 審査員:土肥 真人,中井 検裕,坂野 達郎,十代田 朗,真野 洋介
Citation(English)	Degree:Doctor (Academic), Conferring organization: Tokyo Institute of Technology, Report number:乙第4145号, Conferred date:2017/9/30, Degree Type:Thesis doctor, Examiner:,,,,
学位種別(和文)	博士論文
Category(English)	Doctoral Thesis
種別(和文)	審査の要旨
Type(English)	Exam Summary

Powered by T2R2 (Science Tokyo Research Repository)

別　紙　1（論文博士）

論文審査の要旨及び審査員

（2000字程度）

報告番号	乙 第　　号	学位申請者	河西　奈緒	
論文審査員	氏　　名	職　　名	氏　　名	職　　名
	主査　土肥 真人	准教授	真野 洋介	准教授
	中井 検裕	教授		
	坂野 達郎	教授		
	十代田 朗	准教授		

本論文は「ロンドンの『地域とのつながり』に基づく再接続政策－グローバル都市におけるラフスリーピング問題－」と題し、全7章から構成されている。

第1章「研究の概要」では、研究の背景、目的、構成、方法、先行研究と本研究の位置づけ、対象地、研究の意義を示している。本研究が対象とする「再接続」は、ロンドンのラフスリーピング（RS）政策において近年重要性を増す政策理念であり、地域外から来たRS生活者を本人が「地域とのつながり」を有する地域に戻し、家族や支援サービスにつないで安定や回復を図る、世界的に見ても新しい取り組みである。本研究は、ロンドンのRS生活者支援及び再接続政策の歴史的背景、政策立案の過程、制度の内容、実施の状況と個別の支援実態を明らかにし、包括的データベースCHAIN（Combined Homelessness And Information Network）によるRS生活者の非匿名化が進むロンドンにおいて再接続政策が重点化されてきたことの意味を、都市論として考察することを目的とするとしている。

第2章「英国の住宅政策と移民政策の文脈から捉える再接続政策の位置づけ」では、英国の住宅政策、移民政策の内容を把握し、住宅法による広義のホームレス支援制度に対するRS政策の位置づけや、移民RS生活者の公的支援を受ける権利について整理している。また特に、1977年住宅法でホームレス世帯に対する支援責務の基礎自治体間での分配を決定する条件として導入された「地域とのつながり」の規定が、2000年代半ば以降の再接続政策では、地域の公的サービスを受ける資格だけでなく、RS生活者の有する地域への親しみや社会的ネットワークという要素を含むものとして概念化されたことを明らかにしている。

第3章「イングランドおよびロンドンにおけるRS政策とRS人口の変遷」では、再接続政策が重要性を増す近年のロンドンにおけるRS政策の歴史的位置づけを捉えるため、政策実施体制の変化に基づく3つの時期区分を設定し、RS政策や包括的データベースCHAINの変遷を把握している。結果、第Ⅰ期の中央政府主導のRS政策、第Ⅱ期の各基礎自治体によるRS政策を経て、2008年以降の第Ⅲ期は、大ロンドン庁主導でロンドン全域連携体制が確立され、RS生活者を個人識別し網羅的に把握する先進的なデータベースCHAINを活用したロンドン独自の政策が進展したことを明らかにしている。

第4章「ロンドン全域連携体制下のRS政策の展開」では、ロンドン全域連携会議体の組織構成を把握し、実施された18のロンドン全域事業の変遷と内容、投入された資金規模を分析している。結果、データベースによるRS生活者の動態的分析から導出された「流動層」「固定層」「再野宿層」という3類型が政策立案に取り入れられ、各類型に特化した8事業が新たに開発され実施されたことを明らかにしている。中でも、年間RS人口の6割を占める流動層への対応に近年重点が移行し、再接続を主要方針とする事業が新たに開発され、現在は再接続を行う3事業に年845万ポンドの予算のうち447万ポンドが集中的に投入されるようになったことを明らかにしている。

第5章「現在のロンドンの支援システムにみる再接続の位置づけと実態」では、現行のRS生活者支援システムを整理し、これを構成する各事業の内容を把握している。ロンドン全域事業と各基礎自治体の事業がひとつのRS生活者支援システムを形成し、システム内の各支援経路は、RS生活者の非匿名化により把握可能となった個々人の有する地域とのつながりを基準に編成されていることを明らかにしている。また、支援システムを構成する各事業の支援結果がデータベースに集約されることで、各支援経路をたどったRS生活者の人数が把握可能となっている。このデータの分析より、現在のロンドンでは毎四半期に1,000名以上のRS生活者が新たに流入し、300名前後の人々が複数の経路で再接続されるサイクルが繰り返されているという状況を、初めて明らかにしている。

第6章「RS生活者個人の事例にみる再接続の実態と意味」では、網羅的な資料調査から現存資料に掲載のあるRS生活者個人の具体的な再接続事例23件を収集し、個々人のライフ・ヒストリーにおける再接続支援の内容や効果を分析している。結果、再接続支援は個々の状況に応じて多岐にわたるサービス内容を提供し、本人の安定や回復を図るものとして実施され、国内RS生活者と移民RS生活者に係る制度体系の違いを通貫する支援枠組みとなっていることを明らかにしている。

第7章「総合的考察・結論」では、各章の成果をまとめ、現在のロンドンにおけるRS生活者支援システムが、情報システムによって具現化された、個々のRS生活者の持つ特定の地域とのつながりを回復する取り組みを主とするように変化したという画期的な知見を得ている。また、個人が居住を通じて地域とのつながりを形成し、地域とのつながりが個人の地域への定着を支えるという相互作用に価値を見出す再接続政策が、ロンドンのRS生活者支援において重点化されていることは、居住地選択の自由を前提とする近代都市の今後を展望する上で、極めて重要な示唆を与える現象であるとしている。

以上、本研究はロンドンの再接続政策について、歴史的背景、政策立案の過程、制度の内容、実施の状況と個別の支援実態をRS生活者の包括的データベースとの関係に着目しながら明らかにし、個人識別による地域とのつながりの具現化がもたらす人と地域の新たな関係から現代都市の変容と今後の可能性を論じたものであり、都市・環境学において貢献するところが大きい。よって、本論文は、博士（学術）として十分な価値を有するものと認められる。

注意：「論文審査の要旨及び審査員」は、東工大リサーチリポジトリ(T2R2)にてインターネット公表されますので、公表可能な範囲の内容で作成してください。